

テキスト

キノコ

の調べがた



まつたけ



しめじ



しいたけ

大阪市立自然科学博物館

夏休みに植物採集をする人はたくさんいますが、キノコを採集する人はほとんどありません。キノコといえば、すぐマツタケを思い出し、そして毒キノコはおそろしいものだと思いますね。秋の山には、あのおいしいマツタケの他、いろいろな食べられるキノコがいろいろ生えています。キノコをいろいろしらべまわしましょう。

キノコの調べかた

キノコのくらし

秋はキノコのシーズンです。森の中にはもちろんのこと、道ばたの草むらにも、田畑の積みごえの上にも、あのおじけた姿のキノコが生活しているのです。キノコはふつうの植物のような緑色をしていません。つまり葉緑素をもっていないのです。それで生きた植物や死んだ植物、ときには動物から養分をとって生活しているのです。

§ 生きた植物から養分をもらうもの

- a サルノコシカケといわれるかたいキノコの仲間には、立木に生えて、その材の部分をおかす種類がたくさんあり、森林の樹木に大きな害を与えます。またナラタケという食用キノコは、カラマツなどの針葉樹の形成層（茎や根を太らせるたいせつな部分）をおかして木を枯らしてしまいます。
- b マツタケはアカマツ（ときにクロマツ・ツガなど）の林にしか生えないもので、マッシュルームやシイタケのようにかんたん人工栽培することはできません。というのはマツタケの菌糸がアカマツの生きた細い根からみついで菌根^{キノコ}というものを作り、これを通してアカマツから栄養をもらっているからです。またアカマツもマツタケから栄養をもらっているといわれていますが、くわしいことはまだわかっていません。このような菌根を作るキノコや樹木の種類は、ほかにもたくさんありますが、このことはあとで説明しましょう。

§ 死んだ植物体・動物のふんなどから養分をもらうもの

- a 落葉などに生える — アカヤマタケ・ムラサキシメジ・ハリガネオチバタケ・モリノカレバタケなど。なおこのほかに、落ちたマツカサ^{マツカサ}に生えるものとしてニセマツカサシメジやマツカサキノコモドギがあります。
 - b 枯草・堆肥^{たいい}・ふんなどに生える — サケツバタケ・ツクリタケ（マッシュルーム）・ウシグソヒトヨタケなど。
 - c 枯木・倒木^{たか}・腐木^{くも}などに生える — カワラタケ・マンネンタケ・シイタケ・ツギヨタケ・クリタケ・ニガクリタケ・ヒラタケ・ムギタケ・サマツモドギなど。
- 人が切ったり、台風で倒れたりして、あまり年月のたっていない木に生えるキノコと、くさって

ボロ
コは
なら
くな
キノ

§

セ

§

a
る

b
c
た

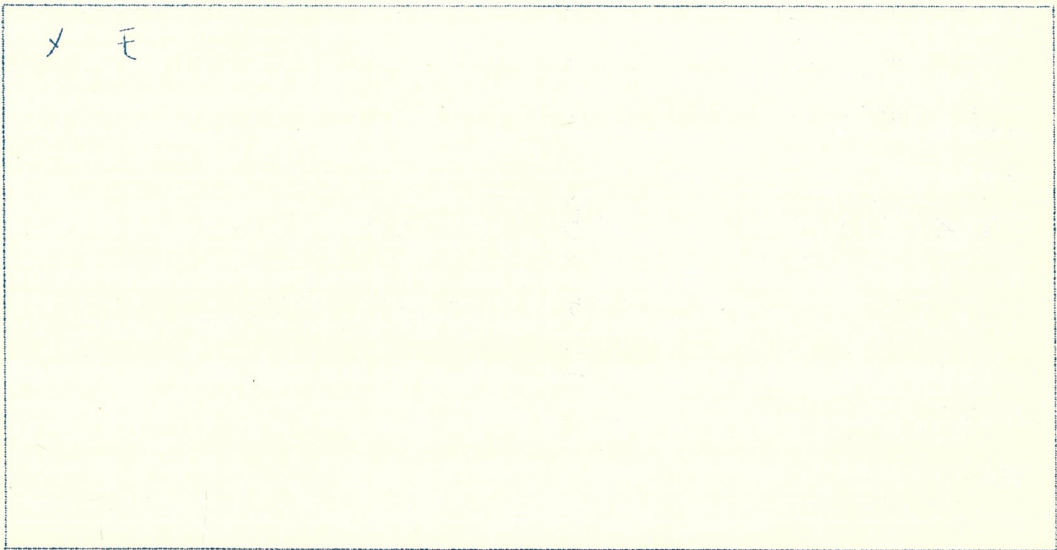
ボロボロになった木に生えるキノコは種類がちがいます。また木の種類によっても生えるキノコはちがっているのがふつうです。たとえば毒キノコと知られているツギヨタケは、ボロボロにならないていどのブナに生えますし、ニガクリタケ(毒)やサマツモドギは、くさってやわらかくなったスギ・マツなど針葉樹の切株に生えます。建物・電柱・枕木・橋げたなどにもしばしばキノコが生えることがあります。

§ 動物に生え、これを殺すもの

セミタケ・クモタケなどで、このような仲間を冬虫夏草と呼んでいます。

§ その他

- a キノコの上にキノコが生える — ヤグラタケはくさったクロハツに、タンポタケは生きているツチダンゴ(地中のキノコ)に発生します。
- b ミズゴケに生える — ミズゴケタケ。
- c 焼けあとに生える — たき火あと、山火事あとなどには、ヤケアトツムタケ・ヤケノシメジなど数種類のキノコが生えます。



マツ林のキノコと雑木林のキノコ

マツタケがアカマツ林に生えるのは、菌根関係があるためだということは一さきほど述べましたが、マツに菌根を作るキノコは、ほかにもたくさんあります。またキノコの中にはマツ・カラマツ・モミ・トウヒなどの針葉樹だけでなく、さらにナラ・カシ・ブナ・カンバなどの広葉樹にも菌根を作るものや、広葉樹にだけ菌根を作るものがあります。だからこういうことを知っていると、採集に行った山の木の種類を見ただけで、そこに生えているキノコの種類がだいたい予想できます。

マツ類(アカマツ・クロマツ)に菌根を作るといわれるもの — マツタケ・マツタケモドキ・ギシメジ・マツシメジ・ギヒダマツシメジ・ショウゲンジ・シロハツ・ドクベニタケ・マブレベニタケ・カワリハツ・ハツタケ・ケシロハツタケ・キツネタケ・クギタケ・オオギタケ・ヌメリイグチ・チチアワタケ・アミタケ・ヤマドリタケ・キッコウアワタケ・コタマゴテングタケ・テングタケ・ガンタケ・ツルタケ・フユママタケ・アブラシメジ・ササタケ・コツブタケ・ショウロ・ツチダンゴなど。

ナラ類(コナラ・ミズナラ・クヌギ・アラカシ)に菌根を作るといわれるもの — タマゴタケ・コタマゴテングタケ・テングタケ・ガンタケ・ツルタケ・コウジタケ・オオウラベニイロカワリ・ヤマドリタケ・アワタケ・キッコウアワタケ・サクラシメジ・ツチカグリ・キチチタケ・カワリハツ・シロハツ・クロハツ・クロハツモドキ・マブレベニタケ・ギチャハツ・アイタケ・アイシメジ・ササタケ・ツチダンゴ・コツブタケなど。

京阪神地方の低い山地は、アカマツとコナラ・クヌギなどのまじった森林が多いので、こういう山に見られるキノコは、だいたい上にあげたような種類を主とし、さらに落葉や切株上のキノコも生えます。

なお針葉樹・広葉樹のいずれにも菌根を作りうるキノコがかなり多いことは上の例を見てもわかることと思います。(一線を引いたものはマツ、または他の針葉樹にだけ菌根を作るもの、二線を引いたものはナラ、または他の広葉樹にだけ菌根を作るもの)実際の森林には、いろいろの木がまじりあって生えているので、採集したキノコがどの木の根に菌根を作っていたかを見分けるのはなかなか困難です。それでも、採集ごとにどんな木の下に生えていたかをしらべる習慣をつけましょう。

メ エ

キ

キノ
れし

(し
チャ

{たん

1 キ

2 ヒ

3 ー

ヒト

4 ー

この

多い

ては

かど

メ



キノコの種類

キノコには何千もの種類がありますが、日本ではまだ^{1/2}程しかわかっていません。研究がすす
れているのです。キノコはだいたいつぎのようなグループに分けます。

〔しのう菌類〕

チマワシタケ類・アミガサタケ類・セミタケ類

〔たんし菌類〕

1 キクラゲ・シロキクラゲ類

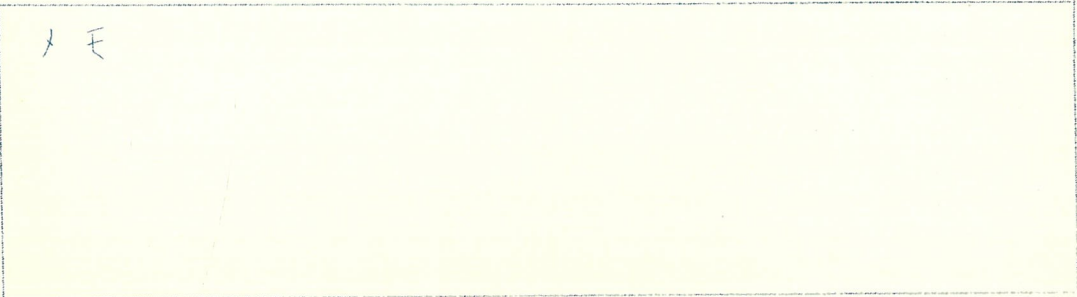
2 ヒダナシタケ類 — サルノコシカケ類・ホウキタケ類・ハリタケ類・ウロコタケ類

3 マツタケ類 — テングタケ・マツタケ・シイタケ・シメジ・ハラタケ・カラカサタケ・
ヒトヨタケ・フリタケ・ハツタケ・アミタケ

4 フクキン類 — ホコリタケ類・ニセシヨウロ類・スッポンタケ類

このうち、わたしたちのキノコ狩りの対象になるのは主にマツタケ類で、種類もいちばん
多いのです。しかし、毒キノコもこの中にたくさんありますから(約 10 種)、注意しなく
てはなりません。(キノコの食・毒のかんたんな区別法はありません。)今日採集したキノコ
がどのグループに属するか分けてみましょう。

メ 子



標本作り

持ち帰ったキノコは捨てないで、なるべく標本を作って残しておきましょう。キノコはなまのままおくとくさりますから、炭火または電熱器の上で、こがさないように注意しながら長い時間をかけこわします。かわくとちぢんでかたくなります。これを種類ずつ古封筒か、小さい箱（マッチ箱・化粧石けんの箱）に入れてラベルをはり、さらにやや大きい箱（砂糖の箱）に入れ、ナフタリンなどの防虫剤を入れて保存します。ラベルには

- 1 キノコの名またはグループ名。
 - 2 地上・樹上、何の木の下など。
 - 3 採集地名。
 - 4 日 登
- などを忘れずに記入しましょう。